

## こつそしょうしょう 骨粗鬆症

英語名 : Osteoporosis

### A. 患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

骨が弱く、もろくなる骨粗鬆症は、医薬品で引き起こされる場合もあり、気付かずに放置していると、骨折等が生じ健康に影響を及ぼすことがあります。経口（飲み薬）ステロイド薬、メトトレキサート、ヘパリン製剤、ワルファリン、抗てんかん薬、リチウム製剤、性腺刺激ホルモン放出ホルモン作動薬（子宮筋腫・子宮内膜症・前立腺肥大治療薬）、タモキシフェン（乳癌治療薬）、アロマターゼ阻害薬（乳癌治療薬）等でみられます。次のような患者さんは、医師・薬剤師に連絡してください。

「身長が2cm以上低下した」、「背中が丸くなった」

また、以下の項目は骨粗鬆症の危険因子ですので、該当する方は専門医への受診をおすすめします。

「過去に背骨、大腿骨の付け根（股関節）、骨盤、手首、肩などに骨折を生じたことがある」

「経口ステロイド薬を毎日、3ヵ月以上使用している。あるいは3ヵ月以上使用予定である。」

「経口ステロイド薬を使用していて、背中や腰の痛み、大腿骨の付け根の痛みがある。下肢のしびれや、下肢に力がはいりづらいことがある」

## 1. 薬剤性骨粗鬆症とは？

骨は、新陳代謝を行なうことで強度を保っています。骨粗鬆症は、新陳代謝のバランスがくずれ、骨に“鬆（ス）”が入り、骨がもろくなった骨格疾患で、転倒や日常生活の何気ない動作、くしゃみなどで容易に骨折が生じてしまう病気のことです。

骨折は椎体（せぼね）の骨折が一番多く、その時の症状は背中の痛みですが、痛みが出ないこともあります。また、椎体のつぶれにより、身長が低下することもあります。

一般的に、骨粗鬆症には加齢や生活習慣、遺伝要因などが関連しています。一方で医薬品により引き起こされる場合もあり、代表的な薬として経口（飲み薬）ステロイド薬があります。メトトレキサートも骨粗鬆症を引き起こす可能性があります。関節リウマチの治療に用いられる量では骨への影響はありません。

経口ステロイド薬を使用することで、骨折が生じやすい方は

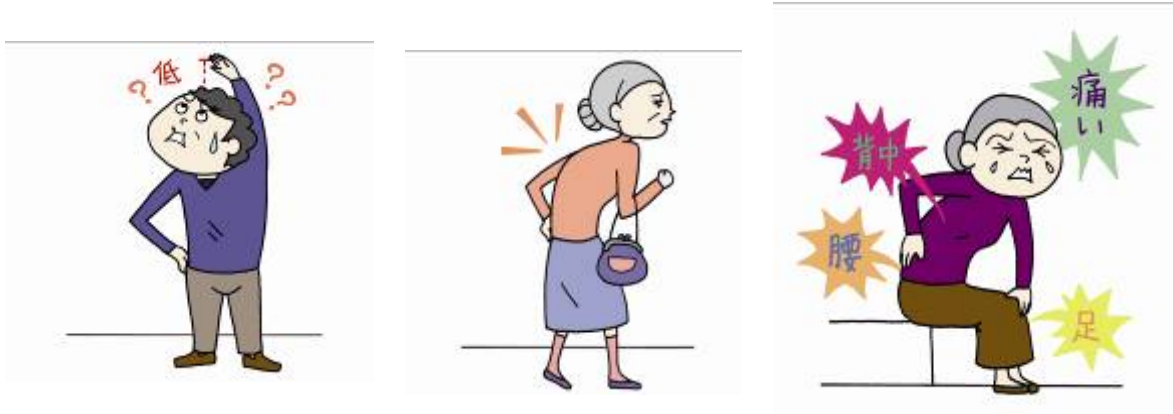
- 過去に骨折をしたことがある方、  
背骨、大腿骨の付け根（股関節）、骨盤、手首、肩など
- 身長が 2cm 以上低下した方（既に背骨に骨折が生じていることがあります）
- 骨密度測定で若年成人平均値の 80%未満の方
- 毎日飲むステロイド薬がプレドニゾン量にして 1日 5mg 以上で、3ヵ月以上継続して飲む必要がある方

## 2. 早期発見と早期対応のポイント

すでに骨折をしたことがある方や経口ステロイド薬を 3 ヶ月以上飲んでいる、あるいは飲む予定である方は、骨粗鬆症が引き起こされ、骨折の危険性が増すことがありますので、医師、薬剤師に相談してください。身長が 2cm 以上低下した方では背骨に骨折が生じていることがあります。

なお、ステロイド薬はいろいろな病気で治療に使用します。ステロイド薬を勝手にやめると、元の病気が悪化することや具

合が悪くなることがありますので自己判断でやめないでください。



- ※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。(http://www.info.pmda.go.jp/)
- また、薬の副作用により被害を受けた方への救済制度については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページの「健康被害救済制度」に掲載されています。(http://www.pmda.go.jp/index.html)